

氏名： 伊藤 美重子 (ITO Mieko)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
学位： 博士 (人文科学)
職名： 准教授
専門分野： 中国古典文学・中国古典語学
E-mail： ito.mieko@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

敦煌／文学／漢字
Dunhuang / literature / Chinese character

◆主要業績

- ・「敦煌の通俗詩「学郎詩」について」『お茶の水女子大学中国文学会報』26号、2007年4月
- ・「敦煌文書と日本のかかわりー敦煌写本「孔子項託相問書と『今昔物語集』」2008年2月20日（台湾大学に於ける報告）

◆研究内容 / Research Pursuits

敦煌文献を資料として、唐末五代の生活文化の継続している。2007年度は、敦煌文献における学校資料として重要な「学郎題記」の調査の一環として、「学郎題記」に付記された学生の書写による詩、所謂「学郎詩」を収集調査して9、10世紀と当時の敦煌地区における学生生活をまとめ、「敦煌の通俗詩「学郎詩」について」というタイトルで一文を発表した。

また、大学院教育改革支援プログラムの一環として、台湾大学との共同ゼミに参加し、敦煌写本「孔子項託相問書」と『今昔物語集』に収録される説話との関連について報告した。『今昔物語集』震旦部の説話には、敦煌文献でしか知りえないような説話が残されており、今後の課題とするものである。2007年度は所属コースの教員が一名不足している中、更に一名が学部長に選出され、コース関連の雑務の処理のため、多大な時間が費やされていまい、研究にあまり時間がとれない状況であった。これから研究の時間を確保するかが問題である。

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部では、(1) コア科目の中国語初級を週 3 コマ、(2) 古典文献の講読を週 1 コマ、(3) 『説文解字注』の講読を週 1 コマを担当した。

大学院の授業では、敦煌文献の講義講読を週 1 コマ担当している。

このほかに、卒業論文、修士論文、博士論文の指導をおこなった。

◆メッセージ

中国は文字の国である。甲骨文から現在中国で用いられている簡体字にいたるまで、脈々と文字文化を伝えてきた国である。漢字文化は中国のみにとどまらず、周辺各国にも影響を与え、日本もその例にもれない。漢字や漢字によって書かれた文章を読むことは、同じ漢字文化圏に属するものとして、みずからを発見するよい機会となる。中国文化を学ぶことで、いろいろな発見をしてほしい。